

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	肝臓免疫代謝学 Liver immunology and metabolism	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
-					
-					
溝口		◎菊池 健太郎			網島 弘道 (助手) 高井 敦子 (助手) 松本 光太郎 (助手) 宮川 浩 (非常勤講師)

	肝臓免疫代謝学Ⅰ (1年次)				肝臓免疫代謝学Ⅱ (2年次)				肝臓免疫代謝学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	<p>講義ではウイルス性肝炎、自己免疫性肝疾患、非アルコール性脂肪性肝炎など各種肝疾患の病態と治療を概説する。</p> <p>演習では症例のサマリーに論文的考察を加え、プレゼンテーションとグループディスカッションを行う。肝臓・消化器疾患の治療手技のハンズオンセミナーに参加する。</p> <p>実習では上部・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、エコーガイド下肝生検などの検査手技を行う。</p>				<p>講義ではウイルスに対する生体防御、自己免疫の作動機序、脂質・糖質の代謝など具体的な肝疾患をもとに免疫、代謝の病態への関与を概説する。</p> <p>演習ではフローサイトメーターなどの実験機器の扱い方を習得する。</p> <p>実習では肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術および肝動脈化学塞栓術、難治性腹水に対するデンプーシャント増設術、食道静脈瘤に対する内視鏡的結紮術・硬化療法などの治療手技を行う。</p>				<p>講義ではT細胞、B細胞、単球、NK細胞など免疫担当細胞のフェノタイプと機能および、肝臓の脂質・糖質代謝にかかわる遺伝子を概説し、各種肝疾患においてどのように作動しているのか解説する。</p> <p>演習では実験機器を用いて基礎的実験を行う。データを解析しプレゼンテーションとグループディスカッションを行う。</p> <p>実習では「肝臓免疫代謝学Ⅰ」、「肝臓免疫代謝学Ⅱ」で行った検査・治療手技を熟成させる。</p>			
到達目標	<p>1 一人の社会人として自らの行動を律し、患者さんの話を傾聴し、チーム医療を実践できる。</p> <p>2 患者さんおよびその家族に、わかりやすい病状説明とエビデンスに基づいた治療方針を説明することができる。</p> <p>3 肝臓・消化器疾患、内科疾患全般の病態の理解、診断および治療ができる。</p>				<p>1 腹部超音波と消化管内視鏡を修得することができる。心臓・甲状腺超音波や気管支鏡、内分泌負荷試験など希望した検査・治療技術を修得することができる。</p> <p>2 肝生検、ラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術、食道静脈瘤結紮術ができる。</p> <p>3 後輩の卒前教育、卒後教育を指導的立場で担当できる。</p>				<p>1 論文抄読により最新の情報を入手、発信することができる。</p> <p>2 基礎的実験を通じて、研究に関わる技術と能力を修得できる。</p> <p>3 学会において症例報告等ができる。</p>			
事前事後学修	<p>受持患者の疾患を教科書で予習すること。臨床上の疑問に対し、医学中央雑誌やPubMedの検索を通じて意見を持つこと。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>受持患者の疾患を教科書で予習すること。臨床および研究上の疑問に対し、医学中央雑誌やPubMedの検索を通じて意見を持つこと。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>臨床および研究上の疑問に対し、医学中央雑誌やPubMedの検索を通じて意見を持つこと。プレゼンテーションの工夫を考へること。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	<p>基本姿勢 30%</p> <p>診察法・検査手技 20%</p> <p>課題提出・レポート 30%</p> <p>学会報告 20%</p>				<p>基本姿勢 30%</p> <p>診察法・検査手技 20%</p> <p>課題提出・レポート 30%</p> <p>学会報告 20%</p>				<p>基本姿勢 30%</p> <p>診察法・検査手技 20%</p> <p>課題提出・レポート 30%</p> <p>学会報告 20%</p>			

■主な演習(講義・実習含む)

	肝臓免疫代謝学Ⅰ (1年次)	肝臓免疫代謝学Ⅱ (2年次)	肝臓免疫代謝学Ⅲ (3年次)
溝口	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
溝口	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
溝口	木 曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 肝臓病学	火 曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 代謝学	木 曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 免疫学
	月 曜日 9 : 00 ~ 11 : 00 腹部超音波検査	月 曜日 9 : 00 ~ 11 : 00 内視鏡検査	月 曜日 9 : 00 ~ 11 : 00 腹部超音波検査
	月 曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 内科外科カンファレンス	木 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 肝臓癌治療カンファレンス	火 曜日 18 : 00 ~ 19 : 00 病理カンファレンス

教科書・参考書

肝臓病学 朝倉書店

その他履修上の注意事項

総合的には医師としてのキャリアの中で、学徳を磨き、肝臓・消化器を専門とした総合内科医を育成することを目標としている。一人の社会人として自らの行動を律し、患者さんの話を傾聴し、チーム医療を実践し、いろいろな技術と知識を身につけ、分院としてcommon diseaseの診療経験を重ねてほしい。

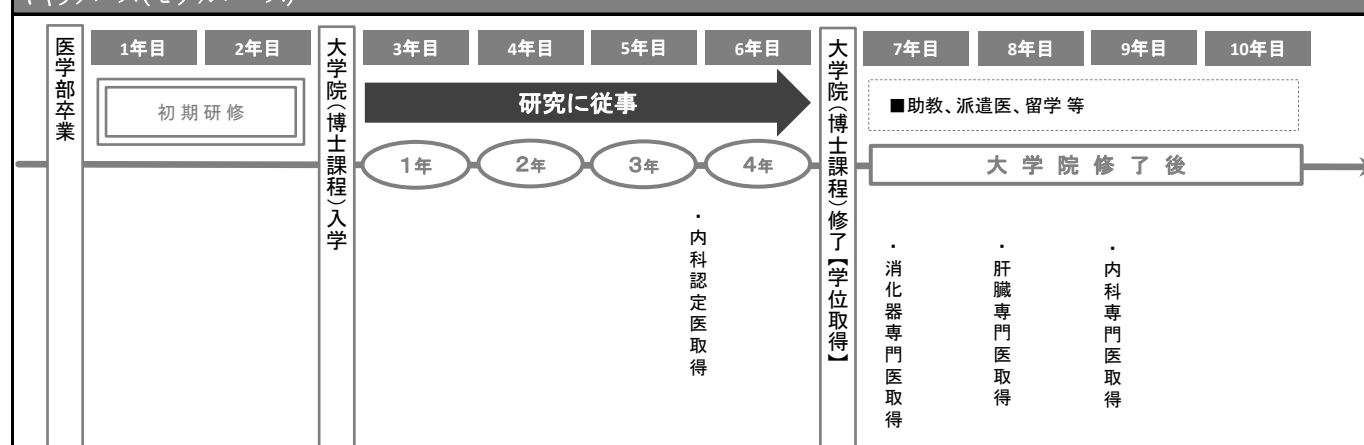
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	肝臓系以外の内科学の履修、および木曜午後の糖尿病チームとの内分泌代謝カンファレンス、第1火曜の外科との病理カンファレンスを副科目として認定することができる。
	共通科目	消化器疾患特論またはプライマリ特論

関連する専門医資格

内科認定医(日本内科学会)、消化器病専門医(日本消化器病学会)、肝臓専門医(日本肝臓学会)、内科専門医(日本内科学会)

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。